

Annual Report  
2024.4 - 2025.3

# Think and do for the happiness

地域の「しあわせ」を考え・行動する



## CONTENTS

- 2 理念
- 3 この1年の取り組み 2024.4-2025.3
- 4 ごあいさつ 理事長・センター長
- 5 評価調査者と事務局記念対談  
現代社会における  
「福祉サービス第三者評価」の意義と価値
- 8 横浜市ヤングケアラー支援事業
- 9 子ども・若者の育ちと自立を地域で  
支える人材育成セミナー
- 10 共に生きる社会づくりのための  
オンライン講座
- 11 障害児・者の保護者のための交流事業  
キャンディーブーケ
- 12 職員育成を主軸とした  
法人コンサルティング事業
- 14 地域福祉保健計画コンサルティング業務  
第5期 港南区地域福祉保健計画骨子策定  
に係るコンサルティング業務委託
- 15 第5期 中区地域福祉保健計画骨子策定  
に係るコンサルティング業務委託
- 16 横浜市地域ケアプラザコーディネーター  
共通研修
- 17 横浜市地域ケアプラザ等新任所長研修
- 18 横浜市地域包括支援センター職員研修
- 19 横浜市専門職階層別研修実施に係る  
業務委託
- 20 福祉サービス第三者評価・  
指定管理者第三者評価
- 22 2024 年度会計報告
- 23 団体概要

# Vision

身近な暮らしのなかで  
個々が「しあわせ」を感じ、共に生きる社会

刻々と変化する社会にあって、私たちは多様な社会問題に直面しています。それでも、ひとり一人が生きること喜びを感じ、共に生きることで、更に生きがいを感じる社会を創りたい。私たちは専門性を持った「あいだの人（中間支援チーム）」となり、笑顔を増やしつつ、一つでも多くの社会問題を解決していくための挑戦をしていきます。

# Mission

「あいだの人になる」

人と人の「あいだ」。人と組織の「あいだ」。市民と行政の「あいだ」。市民と福祉サービスの「あいだ」。過去から未来の「あいだ」。バラバラに解決されようとする社会問題の「あいだ」。そのスタンスに立ち、協働を促すチャンスを探ります。

# Stance

「対話」×「創意工夫」×「行動」

- 1 今を知るために調査・研究に取り組みます
- 2 丁寧に信頼関係を築き、質の高いネットワーキングを構築します
- 3 多様な地域の特徴を知り、客観的な分析と提案をします
- 4 観察力を持ち、企画・行動へのプロセスを実践します
- 5 真の対話を怠らず、創意工夫から新しい方策を模索し続けます



地域の「しあわせ」を考え、行動する「あいだの人」として、これからも…

## 2024.4-2025.3

この1年の取り組み

### 子ども・若者の育ちと自立を考える

4年目となる「子ども・若者の育ちと自立を支えるセミナー」。キリン福祉財団の助成を受け、講師だけではなく、地域で様々な実践をしている方たちをゲストに迎え、子ども・若者の抱える課題を知るとともに、地域での活動者の熱い思いに触れ、「地域のチカラ」の大切さを共有することができました。

### 障害児者と家族の地域での自立生活を考える

4年目を迎えた「共に生きる社会づくりのためのオンライン講座」。今年度は障害別に地域自立生活について、語り合い、その対話の中から更なるつながりが生まれています。障害児・者の保護者のための交流事業「キャンディーブーケ」では、学校卒業後にスポットをあて、交流会で話題が上がった施設の見学会を実施。昨年に引き続き、地域の中で写真展を開催し、生活の中にある【HAPPY】な瞬間を展示しました。

### 地域と共に歩む社会福祉法人として (コンサルティング事業)

昨年に引き続き、2つの障害法人、社会福祉法人素心会、社会福祉法人横浜愛育会の職員育成を軸としたコンサルティング事業をおこなっています。変化していく制度や環境の中、それぞれの個性を引き出しつつ、利用者、家族、地域にどう向き合っていくのか伴走しています。

### 地域福祉保健計画をみんなのものに！ (委託事業)

横浜市は18区すべてで5年ごとに独自の「地域福祉保健計画」を策定しています。2024年度は中区・港南区の第5期地域福祉保健計画骨子の策定のコンサルティングの委託を受けました。区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザと共に住民の声を中心に活かしながら骨子策定の支援を行いました。

### ヤングケアラーへの理解を広める！ (委託事業)

ヤングケアラーの知名度が高まる中、正しい理解を深めるために、有識者、ヤングケアラー支援団体、元当事者など様々な分野の方にご登壇いただき、ヤングケアラーへの理解、求められる支援についてなど、支援の輪を広げるにはどうしたらよいか？を参加者とともに考えました。

### ソーシャルワーク力を磨く！人材育成研修 (委託事業)

人生100年時代を迎え、地域では、多様かつ複合的な課題を抱える当事者・家族が増加しています。日々課題に直面する専門職には、多くの知識やスキル、ソーシャルワーク力が必要となります。「地域共生社会」の実現に向けての人材育成として、今年度は、横浜市地域ケアプラザ職員研修、横浜市包括支援センター職員研修、横浜市福祉職職員階層別職員研修を受託し実施しました。

### 福祉サービス第三者評価

今年度は、保育園、障害施設など25件の事業所からの依頼を受け、福祉サービス第三者評価事業を実施しました。調査員向けの研修も開催し個々のスキルアップを図りました。



PROFILE

明治学院大学大学院修了。神奈川県社会福祉協議会、日本総合研究所、星槎大学等を経て、現在 聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科教授 専門は地域福祉、コミュニティワーク、福祉組織運営論 など 横浜市地域福祉保健計画推進委員会委員、茅ヶ崎市総合計画審議会委員、神奈川県共同募金会評議員 ほかに歴任



更に邁進する中間支援団体を目指して！

理事長 豊田 宗裕

日頃より当センターの事業に多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて今年も多くの方々のご厚意に支えられ、センターのアンニュアルレポートをお届けすることができました。センターの運営にあたっては例年の事ですが、様々な出来事があり、そのたびに関係者の方々よりご協力・ご支援を頂き、多様な局面を乗り越えてまいりました。改めて感謝申し上げる次第です。

毎年、年度の半ばは、当年の事業実施が佳境に入中、翌年の事業の方向性についても検討し、新年度事業の提案書作成等や助成金の申請を行います。

ひとつ一つの事業に悩みも手ごたえも感じながら、成果を目指し、責任をもって事業を全うするため、身を引き締めつつ、新たな挑戦に胸を膨らませて事業に取り組んでいます。おかげさまでここ数年は、年度当初に、法人経営についても体制を整備し、見通しを持って運営をすることができています。

しかしながら、明確な事業目標、事業計画を立案し、クライアントや関係者と対話を重ね、共感と納得の基に事業に臨んでいても、思いがけない事態に遭遇することがあります。そのようなときこそ、他者の立場を理解することに努め、私たち自身が、どのように歩みを進めるかの判断・調整を行わなければなりません。今年度は、そうした

局面に向き合った一年でもあったように感じています。

組織一丸となって、正面から局面に対峙した経験は大きな価値となりました。NPO 法人として、中間支援団体として、地域福祉推進を、すべての人の幸せを願い取り組む組織として、真摯に対話を繰り返したことによって、私たちひとり一人を、組織を、再認識し歩むべき道が見えてきました

私たちが、今日まで、組織を継続し、多様な事業を展開することができたのは、実践研究・実践活動を通して、多様な人や組織との関係性を確実に積み重ねてきたからであると確信するとともに、「関係の構築」、「対話」を重ねることを、これからも組織内外でおこなっていくと改めて決心しました。

当センターの設立理念でもある「あいだの人になる」というミッションのもと、調査研究活動を軸に常に「あいだ」ということにこだわりを持ち続け、人や組織とつながる、つながり続ける環境をつくることを目指して実践を行ってきました。そしてこのミッションは、法人理事役員・職員、全てに確実に浸透し、法人一丸となって事業展開に結びつけることができていると感じています。

今年度も、あらためて「あいだの人」として、活動を続けてまいりたいと思います。今まで以上のご支援・ご協力をお願いいたします。

センター長・副理事長 佐塚 玲子

夢見るのは、多様な協働のパートナーと、共通の目標を定め、異なるストレングス・専門性の絶妙な擦り合わせによって、モチベーションやインセンティブを確保しつつ、共感と納得を積み重ね、人々の生活に届く、トータルで高いパフォーマンスを実現することです。

想いは13年変わることはありません。

今年度、一つの事業が道半ばで撤退することとなりました。法人始まって以来のことでした。アクションリサーチを繰り返してつながった、素晴らしい公益民間活動団体の皆さんと、更に深化した支援の開発のために、何とか協働を継続したかった。無念さ、申し訳なさ、疑問…いろいろが渦巻きます。しかし問いを持ちつつも未来に希望を持って歩み続けなければと思います。

新しい年度、向き合う仕事は、時代を象徴する諸課題を背景とする事業ばかり。その現場で取り組む人や組織との新たな出会いにワクワクする毎日です。お互いを尊重し、共感と納得を得る対話を決して怠らず進んでいきたいと思っています。

どうか、新しい年度も、よろしくをお願いいたします。



諦めません！協働の進化

一年間の仕事を振り返り、今年度も、多くの方々のご支援・ご協力を得て、事業をやり遂げることができたことを実感しています。

本当にありがとうございました。

当センターの仕事は、ネットワークづくり・人材育成・コンサルティング・調査など、年々多岐に渡っています。「皆が幸せを感じる地域社会」の実現を志す私たちは、どの事業も共通に、当事者・団体・地域と協働してアクションリサーチを行います。ヒアリング、ワークショップ、アンケート。暮らしの身近にいる様々な人や組織の気づき・葛藤・一歩踏み出す挑戦…それらを語り合い・共有する中で、地域社会に変革をもたらす、ヒント・チャンスがあり、スピノフ（成果）につながると信じているからです。

複雑多様な諸課題が、誰もの暮らしにのしかかる今、打開しようとする、個性豊かで、革新性を有する、民間活動に刺激を受ける時、私たちは中間支援団体として、地域発信の公益民間活動の価値を如何にして証明できるか、効果的に社会に伝えられるか。関係を進化させつつ、互いの思考を高めあいます。同時に、地域福祉の向上を研究する組織として、専門性と、周辺分野の知識を得る努力も重ねます。

PROFILE

慶応義塾大学卒 神奈川県立保健福祉大学大学院修了 横浜市地域ケアプラザ職員・認定NPO法人市民セクターよこはま等の勤務経験から地域福祉への関心を深める。2012年NPO法人よこはま地域福祉研究センターを故泉一弘氏と設立。以来、副理事長・センター長を兼任。神奈川県社会福祉審議会委員 / 神奈川県地域福祉支援計画評価・推進当委員 相模女子大非常勤講師 / 社会福祉法人 YMCA 福祉会評議員 / 社会福祉法人 恵友会理事

評価調査者と事務局記念対談

現代社会における「福祉サービス第三者評価」の意義と価値



福祉サービス第三者評価事業は、2001（平成13）年から始まった事業で、社会福祉法人等が提供する福祉サービスの質を、当事者（事業者及び利用者）以外の公正・中立な第三者評価機関が、専門的かつ客観的な立場から評価する事業です。その目的は、事業者自らが個々の抱える課題を具体的に把握し、サービスの質の向上へ向けた取組に結び、つなげる。また、評価結果を公表することで、利用者が自分のニーズに適した事業者を選択するために資する情報の一つとすることです。設立以来、13年間取り組みを続けるよこはま地域福祉研究センターの第三者評価。変化の著しい社会と人々の暮らしの中、第三者評価事業の意義や価値について、当センター評価事務局と評価調査者として対談を行うことにしました。

Q：第三者評価事業に携わるきっかけは？

中澤：居宅事業所でケアマネジャーとして勤務していて、たくさんのサービス事業者とやり取りしていて煮詰まる状況が多々ありました。サービス利用者とサービスを提供する事業者との板ばさみになって、何故、利用者のためにもっとしっかりサービス提供してくれないのか（笑）、といった気持ちを事業者に抱いたり…。そんな時、グループホームの外部評価事業に携わることになり、評価事業をととても興味深く感じました。サービス事業者にいろいろなことを聞くことができ、事業者の方も率直に伝えてくれて、思いがけずサービス事業者への見方も変わり理解にもつながりました。

柿沼：研究センターの職員から誘われ評価事業に携わった感じです。はじめは、「評価」って言葉が嫌いだったのですけれど、実際のサービスの現場に行くとか心が湧くものですね。5年前に、評価調査者の資格を取得して、事務局としても評価調査者としても学びながら評価事業に携わっています。以前、特別支援学校の教員をしていたのですが、障害福祉サービスの評価をしていると卒業生に出会うこともあって、教員は卒業後の子どもたちを見ることは少ないのですが、彼らの生活や働く場を見られたことは良い経験でした。

武田：「福祉」をやりたくて、前職のNPO法人に入職して、担当になったのがきっかけです。福祉を理解するには、どのような業務でもじっくり向き合うのが大切だと思い、評価機関の事務局業務

を担当して15年も経ちました（笑）。福祉を全く知らずに入った「評価事業」は、児童福祉、障害福祉、高齢福祉、社会的養護など、非常に横断的に現場を知ることができる仕事で、広く福祉の知識も必要だと思って社会福祉士の資格も13年前に取得しました。

中村：ご近所の人に誘われて、評価調査者の資格をとる説明会にいったのがきっかけです。当時は、評価調査者になるために何度か試験があって、どうせなら受かりたいと思って勉強しているうちに評価調査者になりました（笑）。神奈川県・横浜市・川崎市の評価調査者の資格、情報公表制度の調査者の資格もとりました。いつの間にか20年くらいになります。もともとは銀行員で、子どもに外国語を教えたりするボランティアもしていました。

Q：第三者評価の役割や価値は、事業者と評価調査者が対話によって生み出すサービスの質の向上！

中村：福祉サービスの現場に、外部の人間が入ることの大切さがあると思います。監査とは違って、調査項目のひとつひとつについて、〇×をつけて指導することが目的ではなくて、現場に寄り添って現状を確認していきます。時には、管理者や職員の悩みや愚痴も聴くこともある中で、当該サービスの質の向上につなげていくことは意義のあることだと思います。

中澤：そうですね。現場に出向きヒアリングす

**武田 千香恵**  
第三者評価事業主担当 社会福祉士  
大学卒業後銀行に入職。認定NPO法人市民セクターよこはまで第三者評価事業を担当。センター設立メンバーで、引き続き第三者評価事業に携わる。  
【仕事のモットー】相手に寄り添い、丁寧に向き合う

**中村 恒子**  
神奈川県評価調査者  
社会的養護関係施設第三者評価者 東京都評価者  
【仕事のモットー】コミュニケーションを大切に  
する、時代の変化に敏感である

**佐塚 玲子**  
よこはま地域福祉研究センター  
副理事長・センター長  
よこはま地域福祉研究センター第三者  
評価・評価委員  
【仕事のモットー】あいだの人になる

**中澤 和美**  
第三者評価副担当 介護支援専門員  
居宅事業所でケアマネジャーを務め、情報公表  
制度や評価事業に携わるようになる。2025年  
度よりよこはま地域福祉研究センターに入職、  
評価事業担当となる。  
【仕事のモットー】一歩ずつ、自分の山を登る

**柿沼 陽子**  
第三者評価担当  
特別支援学校、地区センター等での勤務経験が  
ある。5年前に、よこはま地域福祉研究センター  
に入職。評価事業を担当。  
【仕事のモットー】何を求められているか理解  
できるように心掛ける

ることはとても大切だと感じます。対話をするので、今、できていないことがあっても、これから目指していく方向性が、福祉サービスの管理者や職員と評価調査者と一緒に見出せることが度々あります。

**中村：**そうそう。サービス提供をしている人たちは、できていないことはわかっていますが、自分のサービスの良いところや魅力的なところに、意外と気づいていないこともあって、「そんなことを褒めてくれるのですか？」なんて言われることもしばしばです。

**武田：**言葉にするって大切だと思います。日常、現場で懸命に仕事をしている職員の中で可視化されていないサービスへの想いや努力を評価を通じて言葉として示し共有することを通じて、もちろん、利用者のサービス選択にもつながるのですが、法人としても価値になると思うのです。よこはま地域福祉研究センターのミッションは「あいだの人になる」ですが、サービス事業者と評価調査者の間で伝えあうプロセスの中に、評価事業の重要な役割があると思うしそれを支援するのが事務局の役割だと思って仕事をしています。

**中澤：**言葉にするのも容易じゃないですけど、今、感じていることを言葉に変換する作業も、対話を通じて見出していくものだと思います。

**中村：**本当に。そういう振り返りや気づきを得てもらえるのが、第三者評価事業の価値だし意義ですね。

#### Q：福祉サービスの現場の今

##### 支援者のこと・利用者のこと

**中村：**職員が、どのサービスも忙しそうです。職員が生き生きと働いている事業所は良い福祉サービスを提供しているけど、最近は余裕のなさを感じる人が多いです。

**中澤：**入所施設などの評価に入りますが、夜勤続きで疲労困憊した職員に会うことが増えています。人材不足で、最近は、履歴書を法人に提出することもなく、1時間単位でニーズがあれば現場に入る働き方の職員を雇っている法人も増えていると聞きます。

**中村：**外国人の職員も多くなっていますね。日本語も理解し支障なく働いているし、利用者対応も優しいと評価されている外国人が多いようです。法人によっては、資格取得も奨励し資金的支援もしています。

**武田：**サービス利用者にも外国人が増えているから、日本語以外の言葉話せる外国人が役立つこともあると聞きます。

**柿沼：**多様な福祉サービスの現場で、人材不足は深刻だけれど、外国人に対する偏見等について少なくなっていて、それは良いと感じます。

**武田：**職員の状況についての変化もあるけど、利用者の変化もありますよね。高齢施設利用者だと、家族は預かってくれればよしとして無関心層もいますが、細かすぎる要望をしてくる家族も…。

**中澤：**サービス利用者としての権利意識は高くなっているように感じます。福祉サービスは、施設や専門職だけで作るのではなくて、当事者や家族と共に、より良いサービスに育てていく意識があればと思いますが、そういう関係になりにくいことも昨今の福祉サービス現場の状況ではないでしょうか。

**柿沼：**かつては障害児者の家族会、学童保育なども保護者会等々、当事者・家族のつながりもあったけど、今は、圧倒的に共働き世帯が増えたとし、高齢期を迎えても、元気な高齢者は働く時代になっているし、子育てとか介護等での家族のつながりはとても希薄になっているのが現状ですよ。

**中村：**そうですね。第三者評価には、地域との関係づくりや地域ニーズへの対応なども項目にあるけれど、地域社会全体が高齢化していて、福祉サービスを共に育てる関係作りも容易じゃない。サービスを利用する当事者・家族も地域とつながりが少ないことも多いのではないかと想像する中で、福祉サービスの利用者・家族との関係をどう作るか、地域との関係をどう作るかは大切なことですよ。

#### Q：人材確保・職員の定着のために必要なことは？

**中村：**組織内部でのコミュニケーションをふやすことです。お互いを知ること、声掛けがしやすくなり、助け合いができるようになることを感じます。事業所によっては、組織で対策を検討し、職員がキャリアアップできる仕組みを作ったり、スキル向上やネットワーク構築のために、外部研修などに送り出すようにしたりしています。

**中澤：**かかわった法人で、「全職員に、ヒヤリハット1案件出すごとに法人から〇〇〇円進呈」の仕組みがあるところがありました。ヒヤリハットに気づくことは良いことだという共通認識を職員に与え、皆から出されたヒヤリハットをもとに検討をして再発防止だけではなく、チーム作りもする狙いだと思います。

**柿沼：**なるほど。発想を変えて対話の場を増やすよい方法かもしれませんね。

**武田：**さらに、この職場にいたらどんな風に自分が成長できるのかを法人が示すことも大事だと思うし、それは離職防止にもなると思うですよ。

**中村：**様々な創意工夫で人材確保と人材育成を組織内で出来たらいいですよ。実現するには、やっぱり対話を促進させ、リーダーだけでなく、新たな試みについての発想力や具体的な行動に移せる職員が必要ですね。

**柿沼：**人材育成って、大きな法人だからできるってことでもないですよ。小さくてもリーダーが人と仕事を理解していてコミュニケーションを大切にしている法人は、組織内で納得と共感に基づいた良い仕事できています。

**武田：**第三者評価を受審する施設であっても、「第三者評価って何？ 日常無関係なNPO法人の事務局と評価調査者に、何もかも話して何になるの？」って思っているだろう施設長さんがいたりもするけれど、それでも、そういう方が、ぶれな

い志をもって福祉サービスに携わり、現場の職員も、その方について仕事をしています。法人管理者の在り方も千差万別だけど、評価機関として第三者評価の目的を常にとらえ、サービス法人に寄り添い、客観的な第三者による評価がその法人のこれからに資するものになるようにすることが大切ですね。

#### Q：最後に今後の抱負を聞かせてください

**武田：**第三者評価をもっと広く市民に知ってほしい。サービスの質の向上のため、利用者の適切なサービス選択のために第三者評価はあるわけですが、皆が知らなければ、第三者評価事業の成長も活用もないと思えるからです。

**中澤：**今後は評価機関の事務局職員としても第三者評価にかかわることになります。社会の変化が著しい今、適切な第三者評価を行うには、日々、学びを深めていく必要があると思っています。

**柿沼：**仕事ではあるけれど、福祉サービスの現場や、評価調査者の方たちとの評価チームでのやり取りの中にいろいろな気づきがあるところが評価事業の醍醐味で続けていられるんだと思っています。事務中心の仕事と思われるけれど、血の通った、ぬくもりのある仕事だと思っています。利用者×サービス提供者×第三者評価機関、三方良しの仕事をしていきたいです。

**中村：**第三者評価が現場に入って、福祉サービスを社会に伝えることは重要です。個々の事業者のあり方だけではなくて、人々の暮らしのニーズを明らかにして、将来にわたっても、必要な福祉サービスをどうしていくのか社会全体で考えるきっかけにもなります。そのために評価調査者としても、関心を広げて、学び続けながら取り組んでいきたいと思っています。

横浜市ヤングケアラー支援事業（横浜市委託事業）

令和6年度ヤングケアラー支援事業（全6回）

本事業は横浜市からの委託を受け、ケアラーに関する認知度の向上、ケアの実状と当事者たちが求める社会的支援についての知識向上、ヤングケアラー支援の実際についての情報提供、ヤングケアラー支援の地域社会における連携・協働の必要性についての理解、現代における子ども・若者への地域における支援の必要性とその在り方についての理解、市内における基本的知識と情報を得てのヤングケアラー支援の広がりを目的として開催しました。「ヤングケアラー」の知名度は高まっていますが、正しい理解の場がまだ少ないため、専門職、地域活動者等幅広い分野の方が受講されました。これからもヤングケアラーの正しい理解推進と子ども若者への温かな見守りが重要となっています。

**対象** どなたでも  
 ・地域で家族のケアや子どもに関わる活動に携わる方  
 ・家族のケアや子どもに関わる施設の職員  
 ・関係団体、関係機関の職員（教育機関、区福祉保健センター、行政関係者等）

**開催日** ① 6/26(水)、② 8/9(金)、③ 8/21(水)、④ 10/17(木)、⑤ 11/5(火)、⑥ 12/7(土)

**時間** 14:00～15:30 **場所** ①横浜市開港記念会館 ②～⑥ウィリング横浜

**受講延人数** 372名 **参加実数** 177名



テーマ	講師
① ケアラーに優しいヨコハマにしよう！ ご存知ですか？ヤングケアラーのこと	■横浜市子ども青少年局子ども家庭課 ■横浜創英大学看護学部精神看護学教授 横山恵子氏
② 全国のヤングケアラーの実態 ～家族ができること～	■大阪公立大学現代システム科学研究科社会福祉学分野教授 濱島淑恵氏
③ 10代で家族ケアを経験して ～ヤングケアラーの私が地域に願うこと～	■YCARP子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト 熊谷佳音氏
④ ヤングケアラー支援を通じて ～これからのヤングケアラー支援に必要なこと～	■認定NPO法人 KATARIBA 五味菜々緒氏
⑤ ヤングケアラー達と共に生きる！ 地域とケアラーをエンパワ！	■一般社団法人 Omoshiro 勝呂ちひろ氏
⑥ 子どもたちが諦めない社会を目指して！ ヤングケアラー支援で子ども・若者の健やかな育ちを	■大阪公立大学現代システム科学研究科社会福祉学分野 伊藤嘉余子氏



2024年度 キリン福祉財団助成事業

子ども・若者の育ちと自立を地域で支える人材育成セミナー

子ども・若者の育つチカラ・生きるチカラを地域でエンパワ！  
傾けよう！子ども・若者の声に！  
みんなで創ろう！人が輝く社会を！

子ども・若者が地域の様々な人とのつながりや居場所の中で自己肯定感を育んでいくために、どんな関わり方が求められているのか、活動者から学んでいくこのセミナー。4年目の今回はキリン福祉財団の助成を受け、講師だけでなく地域での実践者もゲストに迎え、子ども・若者の抱える課題を深く知ると共に、地域での実践から皆さんの熱い思い、地域のチカラの大切さを毎回、グループワーク、登壇者との対話を通じて、共有することができました。



**第1回 子ども・若者のアドボカシーと育ちの現場を検証する**

子ども・若者の声を聴くということ+社会の今を知ること  
 講師：横浜創英大学 看護学部教授 横山 恵子氏

**第2回 子ども・若者の成長の可能性は無限大！**

打倒！無縁社会 地域社会で自分の居場所を見出すということ  
 講師：NPO 法人 場づくりネット 元島 生氏

**第3回 Stop！孤立防止の子ども・若者支援+子ども×若者×大人のフレンドリー地域づくり**

まちを彷徨う若者たち…見つけたいのは何！？  
 講師：ソーシャルワーカー 根本 真紀氏

**ゲストスピーカー**  
 ■たまめし食堂 鈴木 裕司氏  
 ■NPO 法人 フェアスタートサポート 吉原 志麻氏

**ゲストスピーカー**  
 ■一般社団法人 かけはし 廣瀬 貴樹氏  
 ■一般社団法人 多摩区ソーシャルデザインセンター 俵 隆典氏

**ゲストスピーカー**  
 ■NPO 法人 横浜メンタルサービスネットワーク 鈴木 弘美氏  
 ■NPO 法人この子キャリア応援団 上村 公亮氏  
 ■みんなの居場所☆まんま遊〜と 社会福祉士 山崎 由恵氏



**キリン福祉財団 年代明広氏**

参加させて頂き感じたのは子どもを取り巻く社会課題は子どもの人権に直結しているのだということです。若者たちの声なき声を改めて読むと本当に心が痛みます。しかしこれはごく一部の子どもでしかありません。孤立し声を上げられない子ども達に社会がどう関わっていけばよいのかを考えるよききっかけになりました。

大人の社会課題への無関心は解決の遅れに繋がっていると思います。子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、しかも貧困・不登校・引きこもり・障害などの要因は重層的に絡み合っている中、様々な立場の違う人たちが集い共に学び・意見交換する今回のような場の意義は非常に大きいと感じましたし、このような活動を支援できることを大変嬉しく感じました。

**根本真紀氏**

センターが取り組んできている子ども・若者の育ちと自立を支えるセミナーには、セクターを超えて様々な方が参加し、フラットに学び合える土壌があるなど感じています。「子どもまんなか」と言われるようになってきているが、残念ながら少子化はますます進み、課題も複雑化、深刻化しているように思われますが、だからこそ、多様な主体が様々な視点をもって連帯しあう姿勢が大事になるのではないのでしょうか？これからも、地域に根差した中間支援団体として、草の根で活動する団体が出会い、つながり、エンパワされるような場をつくり続けてくれることを期待しています。

JANPIA 事業についてのご報告

JANPIA 事業「困難を抱え孤立する子ども・若者の社会的自立支援事業」事業終了

センター長 事業管理者 佐塚 玲子  
 子ども・若者の健やかな育ちと自立は、当センター設立当初からの研究テーマです。調査研究・対話と学びの事業を重ね、子ども・若者の育ちや自立に関心を持ち、支援の在り方を考え・行動する人や団体のネットワークが広がりました。

2022年、認定NPO法人神奈川子ども未来ファンドより、JANPIAの3年間で草の根的な公益民間活動の促進を目指す事業提案を共に行ってお誘いを受けました。コンソーシアムによる提案は採択され、神奈川県内5つの活動団体とともに事業を開始しました。

しかしながら、残り1年を残すところで、コンソーシアム間で、本事業の評価の在り方等をめぐり、協働が困難な状況となってしまいました。私たちにとって非常に残念なことであるとともに、実行団体の皆様に多大なご迷惑をかけたこと、申し訳なくお詫言っております。また、JANPIAの方々には、本コンソーシアムが出した結論にご理解頂いたこと感謝しております。今後も、私たちは、真摯に、誠実に、子ども・若者の福祉に取り組んでいく所存です。本事業は新たな資金分配団体に1年間引き継がれることとなりますが、子ども・若者の育ちと自立については引き続き取り組みを進めてまいりますので、引き続き、よろしくお願いたします。

「困難を抱え孤立する子ども・若者の社会的自立支援事業」の担当者として

子どもプロジェクトリーダー 沼 佐代子  
 5つの実行団体の皆さんとは、事業開始以来、何度も訪問し対話を重ねました。どの活動も、子どもや若者に対する想いを感じる個性豊かな取り組みで、どのように地域社会に発信したらよいか、ワクワクしたものです。



事業開始当初、実行団体との関係を深めるために、5人の活動リーダーの方にロングインタビューを行った時にも、育ちづらさ・生きづらさを感じやすい社会で、それぞれのリーダーの、子どもや若者への温かなまなざしと共に、地域社会と共に彼らを支えようとする強い信念に共感して、小冊子制作も試みました。

本格的に事業を始めるにあたっては、3年間の活動プロセスの中で、どのように子ども・若者の変化を観ていくのか、団体ごとの、魅力的な参加型プログラム企画も検討しながら、ロジックモデルの制作を。また、子どもや若者の成長や孤立状態の変化などを可視化するチャートの開発も行いました。3年後はますます楽しみになり、事業全体のマネジメント役としての責任感も強く感じました。

コンソーシアム解消という想定していなかった事態となったことについて、実行団体の皆さんに深くお詫言いたします。困難を抱え孤立する子ども若者支援の事例集作成や、更に多くの子ども支援団体の皆さんとのフォーラムの開催に関われないことは、私たち担当者にとっても残念以上の想いがあります。ですが、子ども・若者の育ちと自立を願い共感した皆さんとの絆はつながると信じてこれからも取り組みを続けたいと思っています。



JANPIA 事業の終了について

よこはま地域福祉研究センター 監事 飯田 剛  
 昨年10月より、神奈川子ども未来ファンドと当センターの運営委員会に2回参加させて頂きました。結果として、コンソーシアム解消により、本事業は早期終了が決定されました。



本事業において、センターは、①困難な事由について、理事長・事務局長をはじめ、職員一丸となって十分な時間をかけ解決策を検討し、②解決策について、センターに関りがある団体への配慮を欠かさず、③できる限り迅速な対応を心掛けていました。つまり、誠実かつ適切な対応をしたと感じています。

人・法人すべての関係性の土台は、「お互いを信頼する=相互信頼」です。そして、相互信頼は良好な関係性の基本です。センターは、この信頼関係を築くために、本事業においては時間と労力を惜みず、業務を行ってまいりました。

今回の早期終了という結果は誠に残念ではありますが、その結果だけに左右されるわけはありません。センターが「お互いの信頼関係」を大切にしている組織であり続けるために、本事業を更なる飛躍のための良い機会と捉えていきたいと考えています。

# 共に生きる社会づくりのための オンライン講座

PART 4

- 全6回 2024年10月31日～2025年2月7日
- Zoom ミーティングを使ったオンライン講座 ●参加申し込み延べ 146人



「ガチガチをゆるゆるに！弱さを大胆に！不安を可能性に！今、目指そう、障害児者にとっての地域での自立生活」をメインテーマに2021年度にスタートした「共に生きる社会づくりのためのオンライン講座」は2024年度PART 4 第4シーズンを迎えました。これまで障害児者、当事者ご本人やご家族、支援者、専門職、研究者の方々を講師に迎えて、福祉、教育、医療、行政、民間、地域など様々な視点で障害児者の地域自立生活を考えてきました。今年度はアーカイブで視聴可能として、学び合う機会をもつことが出来ました。アフターコロナの今、改めて思う、人生100年時代が障害者にとっても家族にとっても現実として近づいています。「親亡き後」から「親も高齢、子も高齢」成人期以降も予想以上の長い人生を見据えて、今年度は障害種別によって、課題が異なることに着目する事にしました。

## 第1回 キックオフ講演「障害児者と家族は人生100年時代をどう生き抜くのか？」

講師 全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長 又村あおい氏 対談 又村あおい氏 佐塚 玲子（よこはま地域福祉研究センター長）

令和6年度の報酬改定に伴い重視される「本人の意思決定」と「地域移行」について、制度が変わっていく中でも変わらない支援、「本人の」と言いながらも本人不在あるいは本人だけの意向でいいのか等、多角的な見方での問題提起をいただきました。対談では「自分らしく、成長を実感し、未来に希望を持って生きるには、当事者は、家族は、支援者はどのように変化し、成長して行く事が大切か」を語り合いました。

- 感想 /
- 子どものころから意思決定支援を受けながら、意思決定をできる機会をつくっていくために家庭・地域・福祉・教育等の連携が重要だと思いました。
  - 人生100年時代を 障がいのある当事者も、どう生きて行くかに焦点をあてて、報酬改定の中で重要視される「本人の希望、意思をどう表出させていくか」についてお話されていたので、具体例も話されてとても分かりやすかったです。

## 第2回

### 身体に障害のある人 「自立への助走 未来につながる学びはできている？」

ナビゲーター 相田 泰宏氏（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）  
プレゼンター 小学生・中学生・高校生 当事者と保護者

- 感想 /
- 当事者自身の言葉で、その年代に沿った悩みや希望が伝えられたので、とても楽しく好感が持てました。子ども達の生の声、それを育ててきた、家庭、幼稚園、学校、福祉や医療関係、社会機関など、実践例として感慨深いです。本人のこれからの社会生活の課題についても共感しました。当事者の意思決定の重要性、それを支援する側の勉強意識の必要性を感じています。



## 第4回

### 知的に障害のある人 「現実的な100歳！ライフマップを描きなす必要を問う」

ナビゲーター 渡辺 幹夫氏（横浜障がい相談システムネクサス副所長）  
プレゼンター 石上 美和氏 高田 収見氏（障害者家族）

- 感想 /
- 子どもの事を支援員に任せっぱなしではなく、人生の大事な核心を、本人も支援員もどう幸せに生き続けられるか。関わるいろんな法人や職種が解決法をシェアする考え方が、これからの福祉の人材育成に必要と思いました。
  - 会話は出来るけれどきちんと伝えられないということは気がつきにくいものではないか。保護者の方が教えて下さる声を大切にしたいです。

## 第3回

### 重度の障害のある人 「あきらめない！できてる？出会いと経験を重ねる事」

ナビゲーター 大郷 和成氏（NPO法人 laile'a 副理事長）  
プレゼンター 脇村 龍馬氏（(株) クレアション代表取締役）  
岡村 正美氏（障害者家族）

- 感想 /
- いつも、何か楽しい事、新しい事にチャレンジされていて、すごいなあ、と思います。諦めるがないというお話しに感激です。反対するスタッフはいないのかと思うくらいです。
  - 福祉の事業化。万年人手不足に悩まされている福祉業界。社会的地位が向上して独自に稼げるようになったら、もっと担い手が増えると感じました。



## 第5回

### 発達や心に病気や障害がある人「直面する生きにくさ当事者も家族もしあわせに生きるを問う」

ナビゲーター 魚住 佐恵氏（NPO 法人ぶかぶか法人統括）  
プレゼンター 梶谷 洋之氏（社会福祉法人横浜共生会花みずぎ）  
坂口 育子氏（社会福祉法人恵友会 理事長）

- 感想 /
- 「ピア相談」は聞いたことがありますが、「ピアヘルパー」は初めて聞いて勉強になりました。
  - このいろんな立場やケースがある現実の中で、それぞれどう生きるかを問っているようで、面白かったです。精神障害者のみならず、一人住まいの中高生が自宅で亡くなられた時（親戚つきあひなく親は既に他界もしくは入院中）警察が入り、たとえ近所の知り合いでも遺体の管理や葬儀の件は教えてもらえないのでした。ご本人の生きた証は、障がいがあるうがなかるうが、残されたもしくはは現に今一緒に時を過ごす仲間として記録を残しておくといいですね。



この講座はNHK歳末助け合いの分配金により実施しました。

## 障害児・者の保護者のための交流事業

# CANDY BOUQUET キャンディーブーケ

※この事業は 赤い羽根共同募金を一部財源にしております

キャンディーブーケでは障害児者・家族・支援者とともに、参加者の普通の生活がちょっと良くなる・楽しくなる。新しい場所や人との出会いの広がりを目的として活動しています。

今年度は、学校卒業後にスポットを当てて、「あったらいいな」な未来を語り合う交流会を行い、実際に学校卒業生から、成人期の生活の様子話を聞いたり、多様な福祉事業所の話を聞いたり、在学中のお子さんをお持ちの保護者からは、子供の体調・現状を踏まえ「こんな生活がしてみたい!」と具体的なあったらいいなを聞くことができました。

交流会での話をもとに2施設（あゆちゃんち・playworks リノア）の見学を行いました。学齢期を過ぎると、教育から離れ、福祉サービスを利用し生活する事が多い中、福祉サービスに頼らず、地域と繋がり地域で役割をもって生活されている「あゆちゃんち」。学齢期を支えてきた放課後等デイサービス事業者が拓く成人期の過ごし場。本人の得意なことから仕事を作っていく「playworks リノア」。それぞれ魅力的な施設・支援者と出会うことができました。

5月23日	家族のギャラリー さくらラウンジ
6月27日	あったらいいな未来の話（交流会）
9月19日	施設見学 あゆちゃんち
10月15日	施設見学 PLAY WORKS リノア
1月29日～2月12日	家族のギャラリー ガッツ・びーと西
2月13日～27日	家族のギャラリー 多機能型拠点 郷
3月5日～13日	家族のギャラリー どんとこい・みなみ
3月13日～	キャンディーブーケ・家族のギャラリー動画公開

### あったらいいな未来の話交流会



- 参加者感想 /
- 既存の福祉サービスに本人をあてはめなければいけない現状が残念（支援者）
  - 学校在学中は守られていたと感じる日々です。今は失敗を恐れずチャレンジする日々です（当事者保護者）

### あゆちゃんち



- 参加者感想 /
- 福祉サービスにとられない卒業後の過ごしを見る事が出来て嬉しい（当事者保護者）
  - 色々な場所に出ていき繋がりを作り、それを大切に育むお母さんのパワーを感じた（当事者保護者）

### PLAY WORKS リノア



- 参加者感想 /
- 放課後デイから生活介護への移行が出来たら本人も保護者も安心して通わせる事ができるだろうと感じた（当事者保護者）
  - あったらいいなを言葉にすることで周りを巻き込んで実現していくスタッフさんの熱意を感じた（当事者保護者）

### 家族のギャラリー Vol.7 開催

キャンディーブーケワークショップ・交流会を通して出会ってきた彩豊かな家族。生活の中で見つけた【HAPPY】な瞬間の写真とエピソードを展示いたしました。年々展示会場として協力して頂ける施設が増え、それぞれの場所でも地域の方々にご覧いただく機会が増え、写真から広がるコミュニケーションも増えています。



キャンディーブーケ事業発信活動として、youtubeで今年度行ったワークショップの様子・家族のギャラリーに寄せられた写真とコメントを纏め動画にして配信しております。是非ご覧ください。

### さくらラウンジ



### ガッツ・びーと西



### 多機能型拠点 郷



### どんとこい・みなみ



### 作品展を見た方の感想 /

- みなさんの笑顔がすてきです!! 笑顔の瞬間大切にしたいです
- こんな笑顔が続くような社会が出来る事を願っています
- わたしの写真をかざってくれてありがとうございます
- アート作品も素敵です。もっと沢山の方に見てもらいたいですね
- その人らしく生き生きと出来る場所があることが知れて温かい気持ちになった
- こういった活動が、もっと多くの人に知ってもらえるといいな

# 社会福祉法人 素心会 社会福祉法人 横浜愛育会

2024年度障害者白書によると、我が国の障害者数は964万人（身体障害者436万人、知的障害者109万人、精神障害者419万人）となり、国民の7.6%が何らかの障害を有していることが示されています。

こうした実態のもと、国の政策は「汎化・拡大」の傾向にあり、① 固定的・画一的福祉の提供から、利用の選択肢と自由度の拡大（措置から契約へ） ② 障害の有無に関わらず共に生きる地域づくり ③ 高齢化も踏まえ年齢や障害を問わず包括的に支援するケアシステムの構築 ④ 誰にでも出番と役割がある地域共生の実現等に向かっており、障害福祉制度政策の改正、新たな福祉サービスの創設が次々行われています。

2つの障害福祉事業を行う社会福祉法人の皆さんは、この大きな変化の渦のなか、改めて当事者や家族に寄り添い心豊かな暮らしが実現できるか？支援者が成長しつつ生き生きと働く職場をどう創るか？地域社会と法人との関係をどう深め活かすのか？を考へ続けています。人材の不足、報酬改定等による経営課題、発生する課題にも立ち向かっています。私たちは中間支援組織として、様々な知見や情報を法人に様々なカタチで提供し、共に考え、行動するなかで、理想で終わらせることがない障害福祉を法人の皆さんと共に実現したいと考えています。

## 社会福祉法人 素心会

### ■ホームページリニューアルに関する取り組み

ホームページをリニューアルするにあたり、素心会には、どんな事業があり、どんな人たちが生活し、どんな職員が働いているのか、ありのままを伝えたい、というプロジェクトメンバーの願いがありました。素心学院・素心デイセンター・地域支援センターそしん・グループホーム等、それぞれのリーダーや職員の皆さんと対話を繰り返し、取材をし、写真を集め、HPの素材づくりをしました。インタビューでは、多くの職員さんが素心会でのお仕事について、キラキラした表情で語る姿がとても印象的でした。

### デザイナーからのコメント

GraphicWebDesigner 神並梢氏

このたび、ご縁があり、よこはま地域福祉研究センター様のご紹介で、素心会様のWebサイトリニューアルを担当させていただいております。

現地を訪問した際、スタッフの皆様が非常に高いモチベーションを持ち、真摯に仕事に取り組んでいる姿が印象的でした。その熱意に触れ、私も利用者やご家族、ご支援者、そしてスタッフの皆様にとって、さらに役立つWebサイトを作りたいという想いが一層強まりました。

素心会様では、①施設の取り組みを広く伝えるための発信手段や、異なる部署間での情報共有の不足、②障害者福祉施設で働く優れた人材の確保に課題を感じておられました。

Webは単なる情報発信のツールにとどまらず、業務効率化や採用活動の強化にも繋がります。サイトをリニューアルを通じて、少しでもその解決に貢献できることを願っております。今後、よこはま地域福祉研究センター様と共に、素心会様のデジタル活用に対する意識をさらに高め、一步一步前進していきたいと考えています。



## 社会福祉法人 横浜愛育会

### ■全職員研修

#### ● 8月 個別アセスメント

「一貫性・継続性を持った支援のためのアセスメント」

講師：増田 和高氏 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 准教授

#### ● 2月 地域アセスメント

「地域アセスメントと地域づくり ～高めよう！支援・地域・法人の魅力～」

講師：増田 和高氏 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 准教授

### ■管理者研修

#### ● 11月 家族版ワールドカフェ

「語り合おう！横浜愛育会について！私たちが願うみんなのしあわせ」

#### ● 3月 「今、障害者制度改革から法人経営を考える」

講師：又村 あおい氏 全国手をつなぐ育成会

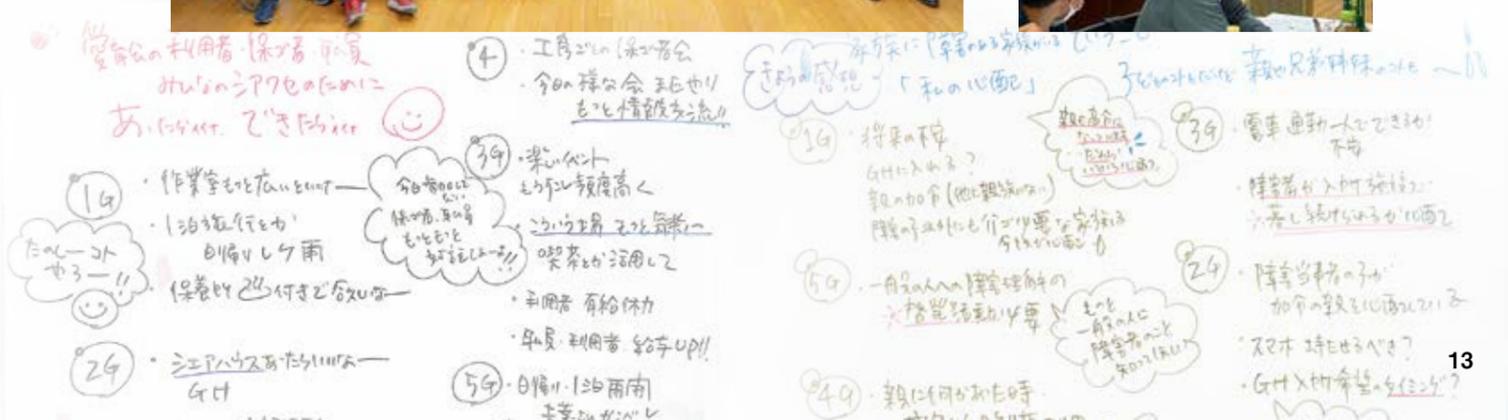
### 講師からのメッセージ

“歩み続ける・共に育ち続ける法人のチカラ”

武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 増田 和高氏



横浜愛育会職員の皆様は、「よく笑い、よく話すメンバー」というイメージが第一印象でした。「この素晴らしい雰囲気は必ず支援に良い影響をおよぼすのだろう」という2年前の印象は、これまでの研修を通して確信に変わりました。研修では繰り返し、「何を目的に支援を行うのか」をテーマに扱いましたが、グループワークでその「目的」を活発に議論し、「我々に何が出来るのか」を講師の想像を超えて次々と言語化された一コマは研修を担当した者として今でも忘れられません。こうした土壌には、もちろん法人としての歴史と理念、風通しのよい職場環境があることは言うまでもありませんが、そうした環境に甘んじることなく、歩みを進めよう、共に育ち続けようとするその姿勢こそが愛育会の最大のチカラではないかと改めて実感しています。研修を通してさらに「発信」や「分析」という「チカラ」が強化された愛育会の皆様が、今後も学びを継続していくとともに、今後はその素晴らしい実践を振り返り「学会発表」などで広く社会に発信していけることを密かに期待しておりますので、次は是非、学会会場でもお会いしましょう！



### 地域福祉保健計画コンサルティング業務

社会福祉法（第107条）によって、市町村は地域福祉保健計画を策定することとされています。横浜市は18区ごとの「区地域福祉保健計画」を策定し、5年ごとに振り返りを行い、新たな計画の策定に取り組んでいます。

今年度は中区と港南区の計画の骨子策定のコンサルティングを受託しました。同じ横浜市でも、区ごとに特徴があり、区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザとの関係性も様々です。私たちは、そのあいだに入り、その関係の質を高めながら、グループヒアリング、インタビュー、対話の時間などを通じ、住民の声を中心に活かしながら、第5期地域福祉保健計画骨子策定の支援を行いました。

## 第5期 港南区 地域福祉保健計画骨子策定に係るコンサルティング業務委託



令和8年から始まる第5期港南区地域福祉保健計画（港南ひまわりプラン）の骨子策定に向け、多くの区民の声を拾い、更に港南ひまわりプランを身近に感じてもらう、プランに参画できるよう、3回のグループヒアリングと、2回の「しゃべっCiao♪」（誰でも参加できる対話の場）を開催しました。

グループヒアリングは、3つのテーマについて、それぞれ幅広い年代の区民、地域活動者、商店、企業、福祉事業者、NPO等多様な分野から、合計100名が参加し、たくさんの意見、アイデアを聴くことができました。

また、今回初めて、「こども版のしゃべっCiao♪」を8月に開催、小学2年生から大学生までのみなさんが参加、「公園のごみ拾いを手伝っているよ」「『ありがとう』って言うことが大切」「環境をもっと良くしたい」「ボランティアをやりたい」など、たくさんの意見が出ました。

12月の「しゃべっCiao♪」には6歳から92歳まで55名の区民が参加、「このような自由に意見を出し合い、聴き合い、お互いを知り、つながれる場が大切」という意見がどのグループからも出ていました。

これらの対話を通じて、港南ひまわりプランの事は知らなくても、自分たちの暮らしの中で、4つのアクション、「知る」「つながる」「できることをやる」「支えあう」に取り組んでいることがわかりました。もっと多くの人がプランを知り、対話の機会を持ち、アイデアを出しながら、「笑顔で暮らせるまち」をつくっていきましょう。

こども版しゃべっCiao♪  
(8/26開催 参加者13名)

テーマ：人も地域も「しあわせ」になるアイデア、どんどんしゃべっCiao♪

しゃべっCiao♪  
(12/21開催 参加者55名)

テーマ：地域社会の中でどのようにつながりを創ったら良いでしょう？

#### ■ グループヒアリング

第1グループ (9/13開催 参加者28名)

テーマ：「困りごとがあっても助けを求められない人への支援」

第2グループ (10/2開催 参加者39名)

テーマ：「地域活動を行う仲間や、様々な分野で活躍する仲間を増やすための取組」

第3グループ (10/15開催 参加者33名)

テーマ：「住民にとって愛着のある『ふるさと港南』にするためには」



## 第5期中区地域福祉保健計画 骨子策定に係るコンサルティング業務委託

中区に事務所を構える当センターとして、中区地域福祉保健計画については、2018年度から2020年度の概ね2年間、第4期計画の策定についてもおかかってきました。「もっとみんなのなかなかないね！」を掲げた第4期の計画骨子ができると同時に、コロナ禍となり、横浜の商業の中心であり、また、外国籍の住民が多く暮らす中区では、人々の生活には多くの困難を抱えることになりました。

今年度、再び第5期地域福祉保健計画骨子の策定に関わることとなり、地域で気になっている困りごとを抱える家族のケース3つを取り上げ、「地域ケア会議」のスタイルでのグループインタビューを実施しました。

参加者それぞれが、地域の多様化する個別の課題を身近に感じ、自分たちは何ができるのか、また地域としてどう考えれば良いかなどを、グループでの対話を通して考えました。

これらのグループインタビューを踏まえ、第5期中区福祉保健計画の骨子を作成しました。

それと同時に、様々なデータを基に中区の地域福祉保健の現状分析を報告しました。

### ①気になる Case 1

「不登校気味の小学3年生A君と共働きの核家族」

**気になるCase1: 不登校気味の小学3年生男子A君の世界**

**A君の家族**

- 不登校気味の小学3年生男子A君
- 共働きで核家族
- A君は平日帰宅時間が遅く、土日勤務もあり
- 母親は、朝早く起きてA君を送り迎えに行く
- A君の不登校が原因で、母親が休職している
- 母親の収入が低い

**家族の気になる様子**

- A君は平日帰宅時間が遅く、土日勤務もあり
- 母親は、朝早く起きてA君を送り迎えに行く
- A君の不登校が原因で、母親が休職している
- 母親の収入が低い

### ②気になる Case 2

「妻に先立たれ孤立しがちで心身の不調もあるBさんとひきこもりがちな次男世帯」

**気になるCase2: 妻に先立たれ孤立しがちで心身の不調もあるBさんと次男の世界**

**Bさん**

- 妻が亡くなって以来、妻を見かけることがなくなった
- 老人会などにも所属していない
- 妻の葬儀費用も負担している
- 妻の葬儀費用も負担している
- 妻の葬儀費用も負担している

**次男**

- 母親が亡くなって以来、母親を見かけることがなくなった
- 母親の葬儀費用も負担している
- 母親の葬儀費用も負担している
- 母親の葬儀費用も負担している

### ③気になる Case 3

「シングルマザー中国人Cさん、中学3年男子、小学6年女子家族」

**気になるCase3: 中国人のCさん、中学3年男子、小学6年女子のシングルマザー世帯**

**Cさん**

- 来日して15年が経過し、日本の暮らしには慣れてきている
- 経済的な面で、節約的に暮らしている
- 子どもとの関係が良好で、新しい日本語がわかる
- 子どもの通学の問題など気になっている
- このまま、パート勤務で生活が成り立つのか
- これからの自分、子ども達の暮らしが不安
- 離婚した後は、まったく変わらないうえに、経済生活を変えてもらうことはできない

**家族の気になる様子**

- 中3男子は、通常の学校生活を送っている
- 中6女子は、勉強が得意で、将来のことを考えている
- Cさんは、忙しい毎日、一人であることが多いが、経済生活を変えてもらうことはできない



## 横浜市地域ケアプラザコーディネーター共通研修

### 胸を張って地域と向き合い福祉を推進するコーディネーターになる！

地域では、多様で複合的な問題があらゆる世代に起こっています。地域課題の解決に向けて地域を知り、人々をつなぎ、誰もが「しあわせ」を感じ、いきいきと暮らせる地域づくりを進めることが地域ケアプラザに求められています。

本事業はプロポーザルを経て、数年ぶりに委託を受けました。

実施にあたり、ケアプラザ職員ひとり一人が地域を理解するための知識やコーディネートスキルを身につけることが大切であると考えました。また、高齢者だけでなく、子ども、若者、障害者を取り巻く現状を理解する必要があります。

令和6年度地域ケアプラザコーディネーター研修では、講義とワークショップを通して、ケアプラザ職員としての知識とスキルを学ぶと共に職員同士お互いの取り組みを知り、悩みを分かち合い、そのつながりを業務に活かすことができるよう企画運営に臨みました。

#### 基礎編

- 対象**：経験24ヶ月未満の地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーター  
**開催日**：①5/27(月) ②6/12(水) ③7/4(木) ④8/2(金) ⑤9/9(月) ⑥9/17(火) ⑦10/10(木)  
**時間**：9:30～17:00 **会場**：ウィリング横浜（第6回のみ波止会場）  
**受講延数**：284名 **参加実数**：59名
- プログラム**  
 プレワークの実施
- 第1回** ①地域ケアプラザの役割 横浜市健康福祉局 末吉直澄氏  
 ②コーディネーターとして何をすべきか すずき野地域ケアプラザ 所長 小藪基氏  
 ③生活支援コーディネーターの役割 上菅地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター 貫洞泰代氏  
 ④地域活動交流コーディネーターの役割  
 講師：箕沢地域ケアプラザ 地域活動交流コーディネーター 伊藤彰子氏  
 ⑤どうする？地域福祉 よこはま地域福祉研究センター 佐塚玲子 センター長
- 第2回** 住民主体のネットワークづくり 講師：武庫川女子大学心理社会学部 准教授 増田和高氏
- 第3回** 地域をつなげる、地域を耕すコーディネート 講師：NPO法人 場づくりネット 副理事長 元島生氏
- 第4回** 共生社会をめざすために 講師：全国手をつなぐ育成会 又村あおい氏  
 子ども・若者への理解を深める 講師：NPO法人 PIECES 斎典道氏
- 第5回** 参加しなくなる地域づくりの進め方～ファシリテート入門編～
- 第6回** つながりを広げて深めて実践する地域づくり～ファシリテート実践編～  
 講師（第5・6回共通）：日本ファシリテーション協会フェロー 加留部 貴行氏
- 第7回** 住民のニーズをつかみ、事業につなげるコーディネート  
 講師：聖徳大学心理社会学部教授 豊田宗裕氏  
 ゲストスピーカー：睦地域ケアプラザ 地域活動交流コーディネーター 森博昭氏  
 上菅地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター 貫洞泰代氏  
 箕沢地域ケアプラザ 地域活動交流コーディネーター 伊藤彰子氏



#### 【受講者の感想】

同じ立場の方たちと知り合い、意見交換ができたことは、とても良い刺激になり今後もモチベーションになっていくと思います。参加前に感じていた疑問や自分自身の迷いが回を重ねるごとにほどこけていく感覚があり手ごたえがありました。

思っていたよりも幅広いジャンルの話を伺うことができて期待以上でした。悩みは尽きないので学びの機会をたくさん作っていただけたとありがたいです。顔なじみのコーディネーターができて良かったです。

7回という長いようで短い研修でしたが「基本のキ」もわからないような私でも理解しやすいプログラムで、受講する甲斐がありました。参加者同士の会話も楽しく、また、このような研修で情報交換したいです。

#### 応用編

- 対象**：基礎編受講者または経験24ヶ月以上の地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーター  
**開催日**：①11/6(水) ②11/21(木) ③12/9(月)  
**時間**：9:30～17:00 **会場**：ウィリング横浜  
**受講延数**：71名 **参加実数**：42名
- プログラム**  
 プレワークシート実施
- 第1回** 子ども・若者の育ちと自立を支える地域づくりを探る  
 講師：立命館大学産業社会学部教授 斎藤真緒氏  
 子ども・若者が孤立を深める現状とその支援 ゲストスピーカー：NPO法人 PIECES 斎典道氏
- 第2回** 共生社会の構築は障害児者の願い 講師：埼玉県立大学名誉教授 朝日雅也氏  
 愛育会が地域と共に目指そうとする利用者のしあわせ  
 ゲストスピーカー：(社福)横浜愛育会 理事長 山崎裕之氏



- 第3回** 地域住民が心豊かに輝ける持続可能なまちを実現する  
 講師：東京都健康長寿医療センター副所長 藤原 佳典氏  
 地域住民が心豊かに輝けるまち～京都の実践事例～  
 ゲストスピーカー：NPO法人ともつく理事長 河本 歩美氏



#### 【受講者の感想】

ヤングケアラーたちが家族に対して「やってあげたい」という前向きな思いも大事に、彼らが人生を振り返った時に「大変だったけど良い経験だった」と思えるような社会の仕組みを作っていけたらと思った。

地区別計画の中で障害のある方たちが地域で活動することを指すという項目を掲げ、取り組みが進まないまま5年が経ってしまいます。地域の方が高齢者・子供だけでなく障害について真剣に取り組んでもらえるようなヒントをいただきました。

課題解決だけでは意見が出てこないのが現状。将来のビジョンを共有することで前向きな意見が出るのではないかと思います。異業種・多様な方と話して、地域のための思いが一致すれば共同できるのではないかと思います。

#### 実践編

- 対象**：経験5年以上の地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーター  
**開催日**：2/3(月) **時間**：9:30～17:00  
**会場**：ウィリング横浜 **参加人数**：17名
- プログラム**  
 プレワークシート実施  
**地域福祉・地域支援の効果的な推進力を高める！～私のコーディネート力の検証から実践向上へ～**  
 地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーターそれぞれの強みを活かし地域に生きる専門職になる。  
 自らの強みと使命の認識、自らの成長とこだわりを持ち、段階的で確実な仕事をする。  
 講師：社会福祉法人全国社会福祉協議会 主任教授 山下興一郎氏



#### 【受講者の感想】

地域のことなどモヤモヤしていることは仲間と共有すると課題の道筋がみえてくると感じたのでひとりで抱え込まずに話してみようと思いました。

相談があった際には関わりにつなげるチャンスと考え、関わる人を増やすこと、またその関係の質をあげることを意識して地域の方に接していきたいです。

今まで行ってきた地域支援について自分を振り返り、無駄ではなかったと、少し自信が持てました。

ケアプラザの活動状況を講師の誘導で深いところまで共有でき、考えることができました。コミュニケーションが基本であることを実感しました。

## 横浜市地域ケアプラザ等新任所長研修

### 地域での存在価値を高める経営を行なうための基本的知識と実践の視点を理解する

地域ケアプラザが設置されて33年、今年度、最後となる146館目のケアプラザが開所しました。ケアプラザは制度や社会状況が変化中、その役割も大きくなり、共生社会の構築に向け、世代や分野を問わない地域福祉を推進する中心的存在となっています。

一方、社会福祉制度を理解し、多様化する福祉課題や住民のニーズへの対応、かつ安定的な組織運営や人材育成など、所長には多くの知識が求められています。地域を支える存在として、福祉サービスの質を保証し提供を継続するためには、法人内職員のコミュニケーションを活発にし、モチベーションを高めて業務に向き合うことのできる職場環境が必要です。そのためには、どのような組織マネジメントが必要か、理論と実践から学ぶために企画運営に取り組みました。

- 対象**：着任後24ヶ月未満の地域ケアプラザ所長及び特別養護老人ホーム併設地域包括支援センター施設長  
**開催日**：8/6(火) **時間**：9:30～17:00  
**会場**：ウィリング横浜 **参加人数**：24名
- プログラム**  
 1. 地域ケアプラザ概論と所長の役割について  
 横浜市健康福祉局地域福祉課 係長 末吉直澄氏  
 2. 地域を支える存在として実践する法人であり続ける  
 社会福祉法人全国社会福祉協議会 山下興一郎氏



#### 【受講者の感想】

具体的な内容で所長という職種に前向きになれる研修でした。

一方的な講義形式ではなく、取り上げるテーマも参加者が今、感じている気持ちや課題に沿ったものだったので主体的に取り組むことができました。

所長として求められる役割、複合的な課題に対して冷静に対応できるようにしたいと思いました。

先生の要約・進め方・話し方など勉強になりました。大切なキーワードもいくつかいただき、着任から日々の業務に埋没しがちなところ良い気づきと刺激の時間になりました。

横浜市地域包括支援センター職員研修

将来的な社会情勢の展望を見据えながら、ともに生きる地域の創造を目指して、今、ソーシャルワーク力を高める！

地域では多様かつ複合的な課題を抱える当事者・家族が増加しています。さらに、コロナ禍を経て孤立化・孤独化が一層広がる中、その「生きづらさ」「SOS」をだれにも話せず一人抱え込んでいる人は増えている状況となっています。

地域包括支援センター職員に対する「高齢者に限定しない地域住民への支援」「誰もが自分らしく暮らせるための地域支援への期待」がますます増大しています。一方、福祉事業に従事する人材の不足は依然として深刻で、高齢人口によって各ケアプラザの包括職員の加配が行われるも、欠員のあるケアプラザも年々増えている状況にあります。包括職員として求められることが増える中、職場体制の厳しさや、包括職員間、ケアプラザの職員間の連携協働体制づくりの難しさを抱え、経験の多寡を問わず、また職種・立場を問わず悩んでいる包括職員が少なくありません。

令和6年の包括支援センター職員研修、基礎編・応用編は、こうした状況を掴んだうえで、毎回ともに地域支援の今日的課題に精通した講師を選定し、現場に生きる情報・知識・技術を習得し、互いに連携しながら視野を広く持ち自信とやりがいとともに業務に取り組めるよう企画運営に臨みました。本事業を経年で受託する中で見えてくる課題改善に少しでもつながる気付きを得ていたととともに、また、仲間を増やしていただくことを通じて、モチベーションをもって業務を遂行していただきたいと願っています。

基礎編

対象：経験年数1年未満の包括職員  
 開催日：①5/29(水) ②6/19(水) ③7/5(金) ④8/7(水) ⑤8/23(金)  
 時間：①～④13:30～17:00 ⑤10:00～16:30 会場：ウィリング横浜  
 受講延数：267名 参加実数：62名

- プログラム)  
 プレワーク(現状把握シート)の実施
- 第1回 横浜市地域ケアプラザと地域包括支援センターの意義と役割  
 「地域ケアプラザとは」講師：横浜市健康福祉局 地域支援課  
 「地域包括支援センターとは」講師：横浜市健康福祉局 高齢在宅支援課  
 「横浜市地域包括支援センターの実践」  
 実践報告者：横浜市内地域包括支援センター 3職種及び所長  
 コーディネーター：よこはま地域福祉研究センター センター長 佐塚 玲子
  - 第2回 社会変化と生きづらい人々の増加地域包括支援センターは何ができる？！  
 講師：早稲田大学 文学学術院文化構想学部 教授 石田 光規 氏
  - 第3回 地域包括支援センターが推進する権利擁護(アドボカシー)の実践  
 講師：武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 准教授 増田 和高 氏
  - 第4回 高齢者の疾患の基礎知識/介護予防ケアマネジメントと介護予防の必要性  
 講師：東京大学高齢社会総合研究機構  
 東京大学未来ビジョン研究センター 教授 飯島 勝矢 氏
  - 第5回 総合相談の役割と実践法・地域包括ケアの実践  
 講師：花園大学社会福祉学部 教授 福富 昌城 氏



応用編

対象：基礎編既受講者または、経験12ヶ月以上の横浜市内地域包括支援センター職員  
 開催日：①9/4(水) ②10/18(金) ③11/11(月) ④11/27(水) ⑤12/19(木)  
 時間：13:30～17:00 会場：ウィリング横浜  
 受講延数：105名 参加実数：46名

- プログラム)
- 第1回 社会的孤立や権利擁護、介護者支援等の新たな対応に向けたマネジメント  
 講師：日本福祉大学大学院特任教授・同福祉政策評価センター長・同権利擁護研究センター長 平野 隆之氏
  - 第2回 ストップ！セルフ・ネグレクト 支援拒否ケースに対する伴走的・ストレンクス支援を拓く  
 講師：東邦大学看護学部 教授 岸 恵美子 氏
  - 第3回 多様なスキルと技術を駆使してケアプラザだからこそその支援を  
 講師：ケアタウン総合研究所 所長 高室 成幸 氏
  - 第4回 事例検討① 地域包括支援センター職員が行う事例検討の意義
  - 第5回 事例検討② 検証！3つの事例検討による  
 ■個別支援と地域支援を連動 ■支援困難ケースの構造理解と対応 ■世代型地域福祉の実現  
 講師：(第4・5回共通) 相模女子大学人間社会学部 准教授 松崎 吉之助 氏  
 コーディネーター：よこはま地域福祉研究センター センター長 佐塚 玲子



〈令和6年度 事例検討〉

事例提供者

- 「50世代の支援について考える」 西金沢地域 CP 主任ケアマネ 野本 薫 氏
- 「地域ケア会議はソーシャルワークで活用できる！」 鶴ヶ峰地域 CP 社会福祉士 若林 大助 氏
- 「高齢者のみまもりと地域のネットワーク 地域包括支援センターの支援」 沢渡三ツ沢地域 CP 保健師 藤田 玲子 氏

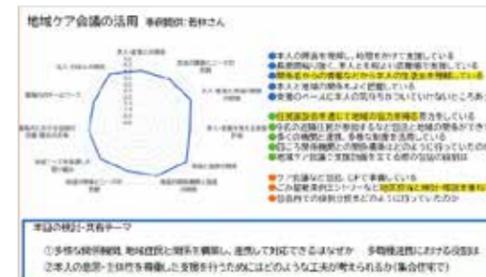
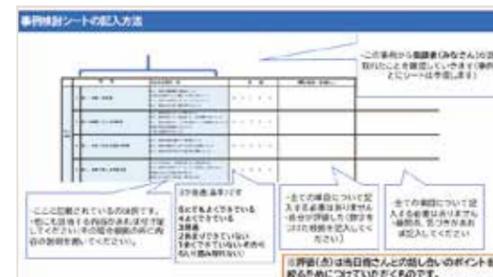
事例検討の視点

- 人と環境の関係をとらえる視点
- システムをとらえる視点



今年度も応用編の事例検討を通じて、3職種の事例提供者それぞれが、包括支援センター内および他業種の支援者と連携しながら、時間をかけ丁寧にクライアントやその家族と信頼関係を築き、さらにそこから地域に共通のニーズも見出し新たな支援体制の構築に繋げている過程を、講師と受講者の皆さんとともに分析・共有しました。誰もが支え手・担い手となる地域共生社会で安心して暮らせるよう包括職員に求められている「個別支援力」と「地域支援力」について、実際の事例の検討を通して理解を深めました。事例検討は、新たな支援、また支援の深め方を学び合いの中で発見することにつながっています。研修終了後、受講者からは自らの実践へ活かす意欲を語る声が、多く聞かれました。

地域や組織を俯瞰する新たな視点、構想・デザイン力そして実行力という「ソーシャルワーク力」を手に入れた受講者が、現場でその力をまわりの職員とも共有し、自信を持って楽しみながら業務を遂行されることを期待しています。



横浜市専門職（社会福祉職・保健師）階層別研修実施に係る業務委託

横浜市の社会福祉職研修実施に係る業務の一部について令和4年度から外部委託されることとなり、委託開始当初より当センターが受託してきました。昨年度から、新人職員から責任職等の階層、社会福祉職、保健師等、職種を広げ、さらに今年度は大規模会場での研修や、昨今の震災や自然災害に際し、実践を想定した内容の研修も新たに加わり、全30回の研修実施に係る業務を実施しました。

横浜市は、キャリアラダーに則り、職種ごとの人材育成に力を入れており、専門職職員としての基盤となる知識・技術、専門能力を身につけるとともに、昨今の社会情勢を加味しつつ、ソーシャルワーカーとして高い志をもって働くためのカリキュラムを整備しています。当センターは、本事業に関わることで横浜市の目指すところ、そのための養成プログラムの開発など、外部の研究者等と連携協働されていることを理解し、確かなサポートができるよう努めました。また、横浜市担当者と密に連絡を取りあい、効果的で効率的な研修運営を常に模索しながら進めました。当センターでも力を入れている人材養成事業での経験が少しでも活かせるよう、時には積極的に提案をしたり、意見交換をしたりして、より充実した実りある研修となるよう努めました。

令和6年度も、クライアントである横浜市と良好な信頼関係を築きながら、よこはま地域福祉研究センターらしい業務ができた振り返っています。令和7年度も継続受託が決まりましたので、一層充実した研修となるよう努めていきたいと考えています。

## ライフステージに切れ目のない福祉サービスの支援を目指して、評価の役割を思う

神奈川県では福祉サービス第三者評価の評価項目を1本化してから6年目となり、今年度は神奈川県版評価項目での受審2回目を迎える施設もありました。県版評価項目になって、運営面や事業の継続性、利用者主体のサービス実施、サービスの質の向上と安定化が共通の課題として、評価でも取り上げられるようになりました。

今年度の評価機関内の評価調査者研修では、児童分野に関連して、小学校への移行支援に着目して、スクールカウンセラーの仕事や学校現場の課題について研修を行いました。保育園の評価を行う上で、その先の小学校での対応や、小学校の現状などを知ることで、乳幼児期から学齢期の子どもの育ちを見通しての評価の在り方を考えることが出来ました。また、

### お知らせ

これまで、よこはま地域福祉研究センターでは神奈川県内の評価を中心に、東京都、社会的養護関係施設の第三者評価を実施してきました。自治体や推進機構の違う評価を実施することにより、より深く第三者評価の意義を知ることができましたが、評価機関として次のステージを模索する中、東京都の評価機関の業務を2024年度をもって終了することといたしました。今後は、神奈川県内と社会的養護関係施設の評価に特化し、これまで蓄積した経験を活かし効率的に発揮しながら、より実りある評価が実施できるよう、努めていきたいと思っております。

「令和6年度障害分野福祉サービス等報酬改定」に伴って、障害分野の第三者評価受審促進も予想される中、グループホームの評価手法が変更されました。研修では障害分野全般についても取り上げ、ライフステージに切れ目のない支援を目指し、地域との関係づくり、地域移行などについても学ぶことで、分野を超えて福祉サービス全体への視野を広げました。

よこはま地域福祉研究センターとして、自主事業で障害や子ども若者の研修を行い、横浜市の委託事業で福祉分野の研修を複数受託し、障害法人のコンサルタント業務を受託するなど、地域福祉の視点から、事業者へ寄り添い、利用者、市民の視点を大切に、これから福祉サービスの向上を目指す評価を進めてまいります。



評価委員会の様子

毎年度テーマを設定して勉強会を開催しています

### 評価委員の声

評価はより良い「変革」につながるのか、新たな連携・協働を目指して

1つの施設を「評価」することに、何か限界を感じている自分があります。例えば、津久井やまゆり園事件をはじめとする「やまゆり事件」がありますが、何かあれば常に検証委員会や第三者委員会等の外部から意見具申する形で（マスコミも含めて）、施設運営に「物申す」こととなります。もし自分が施設側だったら「どう思うか」と考えると、案外つらいものがあります。外部の委員会とはそういうものだとわかりつつ、「これでいいか」を考えるわけで、もし今、施設に大きな問題があるとして、その1施設、あるいは1法人に問われても「解決」できることは少ないように思います。行政、地域を含めての「大胆な変革」を考える中でこそ、「施設変革」ができるように思います。

第三者評価をさせていただいて勉強にはなっていますが、このように感じている自分があります。一つの施設や法人が「評価がいい、悪い」ということだけでは、「変革」には結びつかないと思うわけです。今、求められているのは法人や施設を超えた、対等な新しい「連携・協働」を創ることかなと…

〈ガッツ・ビーと西 渡辺幹夫〉

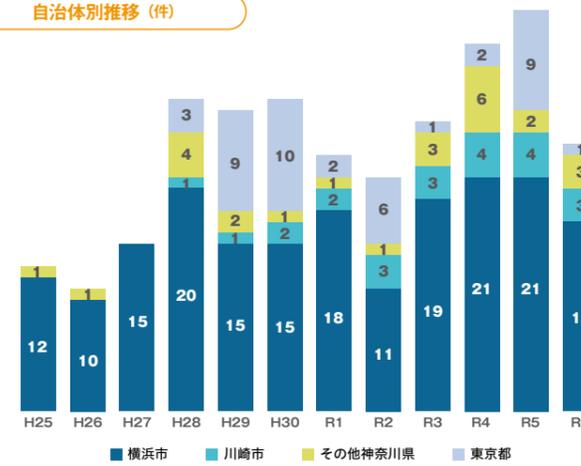
今年度初めてアニュアルレポートの特集ページを福祉サービス第三者評価の調査員と事務局の対談にしました。お読みいただけたでしょうか。事務局の武田、柿沼・中澤、ベテラン調査者の中村さんも、福祉サービス第三者評価がサービス利用者に、また、サービスを提供する事業者に資するものとなるよう、切磋琢磨し事業に取り組んでいます。

制度福祉サービスが措置から契約になった介護保険制度施行元年、現場で仕事をしていた私は、超高齢社会、高齢福祉サービスニーズの対象が特別の誰かではなく誰もが受ける可能性のあるサービスとなったと実感しました。また、障害福祉サービスに関しても全人口の1割が何らかの障害を持つ人となり、どのような障害があろうとも、その人らしい暮らしを地域社会で実現することが福祉の役割とされる中、「困っていることに手を差し伸べるサービス」のみならず、高齢者・障害者、子どもや子育てをする市民に対しても「如何に、自分らしく生きることを促進することができるか」が福祉サービスの重要な役割になっています。

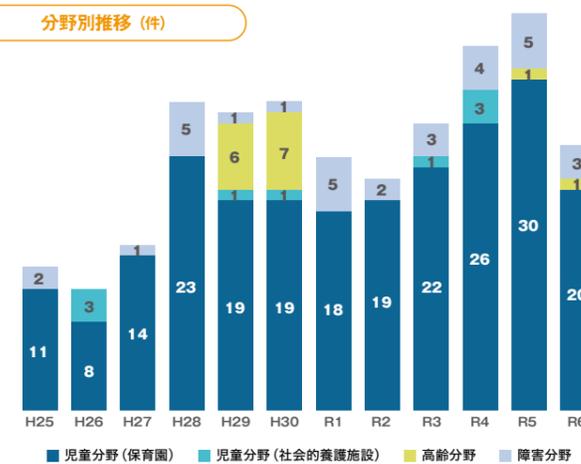
第三者評価は、その容易ではない福祉サービス使命を、どのように実現するのか事業所（管理者・職員・利用者・家族）と評価事業所（調査者・評価委員・事務局職員）がタッグを組んで協議し見出していく事業です。どうか、多くの皆さんに、福祉サービス第三者評価事業を知っていただき、更に多くの人によって福祉サービスの向上をご一緒に考えて頂きたいと願っています。是非、このページについてもご一読願います。

〈センター長 佐塚玲子〉

自治体別推移（件）



分野別推移（件）



2024年度実績 受審施設（順不動）

- 【神奈川県内（子ども分野）・20件】  
 保育園小紅  
 みなみマノ保育園  
 SEAKID 保育園  
 鶴沼げんきっず保育園  
 あおぞら菅田保育園  
 パレット保育園長津田  
 パレット保育園高津  
 パレット保育園高田  
 パレット保育園たまプラーザ  
 新川崎みらいのそら保育園  
 スターチャイルド《藤が丘ナーサリー》  
 スターチャイルド《金沢文庫ナーサリー》  
 スターチャイルド《戸塚ナーサリー》  
 スターチャイルド《綱島ナーサリー》  
 スターチャイルド《岸根公園ナーサリー》  
 スターチャイルド《新田ナーサリー》  
 スターチャイルド《登戸ナーサリー》  
 スターチャイルド《長津田ナーサリー》  
 スターチャイルド《藤が丘小規模保育所》  
 げんきっず保育園ココテラス（企業主導型保育園）

- 【神奈川県内（障害児/者分野）・2件】  
 グループホーム慧  
 横浜市松風学園

- 【神奈川県内（高齢分野）・1件】  
 みなもの桜

- 【東京都内（障害分野）1件】  
 ゆいまーる生活館

### 評価調査者の声

私は、第三者評価調査者として関わらせていただいてまだ2年ですが、保育園に訪問に向う度に、職員の方々が子どもたちの主体性を大切に、穏やかに子どもたちに言葉がけをしている姿や、職員同士の連携のすばらしさに感銘を受けています。子ども達を取り巻く環境が変化する昨今、地域社会との結びつきが持ちにくく、孤立してしまいそうになる親子。また、いつ起こるかもしれない災害など課題は尽きません。でも保育園では子どもの命と安全を守るために、様々な取り組みを模索しています。「地域の親子と一緒に子育ての楽しさを分かち合えないか、そのための企画を考えてみよう」、「災害時には想定外のことが起こるかもしれない、様々な側面から命を守る術を考えよう」など。

私は第三者の目として、課題に向かっていく職員の方々の気づきにつながるように調査をさせていただき報告書を作成しています。最終的な報告訪問の時に「今回第三者評価を受けて良かったです。すでに職員みんなで課題に向かって取り組んでいます」との言葉をいただくと、私も共に成長できたように感じ、調査者としてのやりがいに繋がっています。

〈K.Nさん〉

### 指定管理者第三者評価

横浜市指定管理者第三者評価は5年間の指定管理機関の間に1回は受審することとなっています。今年度は地区センター1件の評価を行いました。第三者評価では指定管理者が協定書通りの管理運営を行っているかを評価するのはもちろんですが、私たちは、地域ケアプラザや地区センターなど、市民の生活の近い所にある公共施設が設置目的にある役割と共に、地域の方々に愛され、地域作りや地域の課題の助けになるような役割も求められると考えています。利用者を温かく受け入れるとともに、市民と指定管理者が共に地域を作り、施設を育てることに気付き合える評価を目指していきたいと思っています。今年度は地域ケアプラザの受審はありませんでしたが、当センターでは横浜市からの委託で「地域包括支援センター職員研修」「横浜市地域ケアプラザコーディネーター共通研修」を行っています。

2024年度実績

- 受審施設（1件）  
 横浜市  
 舞岡地区センター

経常収益		
	2024年度 決算	2025年度 予算
1. 受取会費	89,000	113,000
2. 受取寄附金	50,000	0
3. 受取助成金	2,618,332	1,040,000
4. 受託収益	24,849,700	28,773,910
5. 事業収益	16,489,890	14,443,100
6. その他収益	3,163	3,102
<b>経常収益計</b>	<b>44,100,085</b>	<b>44,373,112</b>

変化し続ける社会の中で、市民生活も市民生活を支える多様な分野の従事者たちも、葛藤し、生きづらさや働きづらさを抱える実情を目の当たりにします。

当センターは、すべての人の幸せのために、どのように福祉推進をするのか？

学び続け、取り組みを企て、事業として実践します。毎年、決まった事業は一つもありません。助成金の申請、委託・協働事業の提案、自主事業の企画と営業活動を、小さな組織が行っていくことは容易ではありませんが、事務局職員それぞれが持つ、知識・ネットワークを生かし、時に、理事や監事、外部のたくさんの協力者の助言を得て、今に至っています。

また、これからの法人を見据える時、豊富な知識と情報、柔軟な信頼で結ばれたネットワークを持ち続け、革新と発展も意識した承継のため、組織作りについても検討をおこなっています。医療・福祉・教育等の有資格者であったり、専門機関における勤務経験があることのみでは、当センター業務には馴染みにくいうえ、待遇面でも充分ではないかもしれません。しかし、多様な地域・多様な対象者と向き合い、福祉向上を目指すセンターならではの事業をチームで生み出し、実践することによる己と組織の成長の手応えは、価値あるものと考えています。

過去2か年、更に新たな年度の予算も含め、ようやく経常収益

経常費用		
	2024年度 決算	2025年度 予算
1. 事業費	32,405,988	36,435,125
2. 管理費	5,655,441	6,117,327
<b>経常費用計</b>	<b>38,061,429</b>	<b>42,552,452</b>
税引前当期純利益額	6,038,656	1,820,660
法人税支払額	797,900	660,000
当期正味財産増減額	5,240,756	1,160,660
前期繰越正味財産額	8,483,081	13,723,837
次期繰越正味財産額	13,723,837	14,884,497

4000万円を超える数字となりました。新しい年度も、多くの事業を行います。

これまでご一緒した皆さまとは更に手を携え、また、新たに出会う皆さまとも、対話を通して、すべての人の幸せのために協働できますことを願っております。

引き続き、ご支援ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



講師・アドバイザー	
<p>■講師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小田原市民学校 (小田原市・小田原市社会福祉協議会)</li> <li>・地域福祉コーディネーター養成研修 (小田原市社会福祉協議会)</li> <li>・地域福祉保健計画推進研修 (横浜市港南区役所)</li> <li>・地域福祉保健計画従事者研修 (横浜市中区役所)</li> <li>・大和市圏域ケア会議あり方検討 (上草柳・中央地域包括支援センター)</li> <li>・大和市生活支援 Co 研修 (大和市社会福祉協議会)</li> <li>・相模原市星が丘地区地域ケア会議実践研修 (星が丘地域包括支援センター)</li> <li>・ヨコバシボンジウム「ヤングケアラーに寄り添う社会へ」(市民セクターよこはま)</li> <li>・厚木市緑が丘地区市民活動者交流会 (厚木市社会福祉協議会)</li> <li>・愛川町地域活動交流会 (愛川町社会福祉協議会)</li> </ul>	<p>■アドバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中区地域活動交流コーディネーター連絡会 (中区社会福祉協議会)</li> <li>・港南区地域活動交流コーディネーター連絡会 (港南区社会福祉協議会)</li> <li>・緑区ボランティア交流会 (緑区社会福祉協議会)</li> <li>・横浜市保土ヶ谷区川島地区市民活動連絡会 (保土ヶ谷区社会福祉協議会)</li> </ul> <p>■役員等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県社会福祉審議会委員</li> <li>・神奈川県地域福祉支援計画評価・推進等委員会</li> <li>・「ヨコハマアートサイト 2023 年」選考委員</li> <li>・神奈川県障害者芸術文化活動支援センター協力委員</li> <li>・社福) YMCA 福祉会評議員</li> <li>・社福) 恵友会理事</li> </ul>

団体概要

役員	氏名	所属
理事長	豊田 宗裕	聖徳大学・聖徳大学短期大学部心理・福祉学部社会福祉学科 教授
副理事長	佐塚 玲子	神奈川県社会福祉審議会委員 神奈川県地域福祉支援計画評価・推進等委員会 相模女子大学 人間社会学科 講師 横浜 YMCA 福祉評議員
理事	太田 貞司	長野大学社会学部 教授
理事	松崎 吉之助	相模女子大学・短期大学部 人間社会学部 准教授
理事	加留部 貴行	九州大学大学院 総合新領域学府 客員教授
理事	鳴海 美和子	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
理事	及部 慶	神奈川県立座間支援学校 相模向陽館分教室 臨時的任用講師
理事	原島 隆行	社会福祉法人 若竹大寿会
理事	武田 千香恵	社会福祉士
監事	飯田 剛史	社会保険労務士法人ことのは

職員	氏名	所属	外部協力スタッフ	氏名	所属
	佐塚 玲子 センター長・管理責任者			勝田 泰輔 IT サポートスタッフ	
	武田 千香恵 第三者評価主担当 横浜市委託事業主担当・事務局			宮本 太郎 IT サポートスタッフ	
	横井 千恵 横浜市委託事業主担当・事務局			柏田 貴代 カメラマン	
	松本 貴子 横浜市委託事業担当 障害 PJ サポートスタッフ・事務局			神並 梢 チラシ・広報	
			柿沼 陽子 障害 PJ 主担当・第三者評価担当・事務局		
			沼 佐代子 子ども PJ 主担当・事務局		
			酒井 智子 子ども PJ・横浜市委託事業サポートスタッフ		
			武川 理絵 経理・総務・障害 PJ サポートスタッフ		
			加藤 絵里香 横浜市委託事業・第三者評価サポートスタッフ		

一緒に福祉のこと  
考えませんか？



入会・寄付のお申し込みは  
▲二次元バーコードか  
当センターホームページ  
「応援する」より

会員募集のご案内

- ▶▶▶ 種類・年会費 期間は4月1日から翌年3月31日 年度更新
- 研究会員：個人…3,000 円／法人…10,000 円 〈法人の目的に賛同し入会した個人及び団体〉
- 賛助会員：1 口…10,000 円以上 〈法人の目的に賛同し事業を援助する個人及び団体〉

▶▶▶ 会員になっていただいた皆さまには

1. 総会へのご出席  
前年度の アニュアルレポート をお送りします。  
事業内容等ご覧いただきながら会員間での情報交換、新たな取組への意見交換の機会を設けます。
2. 当センター主催講座への無料参加  
各事業主催の自主勉強会・講座を予定しており、会員の皆さまへはご案内をお送りさせていただいております。どれも無料で参加していただく事ができます。

寄付のご案内

法人の取り組みに賛同し活動を応援してくださる皆さまから、個人、法人の区別なくご寄付を受け付けています。

- 1 口…1,000 円 一口以上

ご寄付いただいた皆さまには直近前年度の アニュアルレポートをお送りします

顔の見える関係づくりから  
はじまる、はじめる

